

會 務 報 告

第 25 卷 第 3 號 昭和 14 年 3 月

通常總會記事

昭和 14 年 2 月 15 日午後 4 時 30 分より東京市麹町區丸ノ内 3 丁目 4 番地帝國鐵道協會に於て通常總會を開催せり。

出席者：91 名

會長辰馬鎌藏君議長席に着き開會を宣し下記議事に就き出席會員の承認を得たり。

1. 昭和 13 年度事業報告 (本號會告欄参照)
2. 昭和 13 年度決算報告 (本號會告欄参照)
3. 役員選舉の結果報告

投票人員 893 名

會長	當選 (改選)	868 票	八田嘉明君
	次點	1 票	新井榮吉君
		1 票	草間偉君
		1 票	谷口三郎君
副會長	當選 (改選)	851 票	谷口三郎君
	次點	2 票	阿曾沼均君
		2 票	佐藤利恭君
		2 票	物部長穂君
		2 票	山口昇君

以下略す。

常議員	當選 (改選)	826 票	岡田實君
	同	826 票	春藤眞三君
	同	823 票	山中良樹君
	同	821 票	和田重辰君
	同	819 票	鈴木長治君
	同	816 票	山本亨君
	同	815 票	稻葉通彦君
	同	814 票	松本伊之吉君
	同	811 票	瀧尾達也君
	同	802 票	百武定一君
	次點	13 票	青木楠男君
		11 票	目黒清雄君
		10 票	岩崎富久君
		10 票	成瀬勝武君
		8 票	岩澤忠恭君
		8 票	吉岡計之助君
		8 票	吉田徳次郎君

以下略す。

常議員	當選 (補缺)	803 票	目黒清雄君
	次點	4 票	和田重辰君
		2 票	本間仁君
		2 票	横山喬君
		2 票	吉岡計之助君

以下略す。

4. 特定期間中入會金免除の件を上程し全會一致次の如く可決せり。

「昭和 14 年 1 月 1 日ヨリ昭和 14 年 12 月 31 日迄ニ新ニ入會ヲ承認セラレタル會員、准員、學生員ニ對シ土木學會規則ノ規定ニ拘ラズ特ニ入會金ノ納付ヲ免除スルコトヲ得ルモノトス」

以上を以て議事を了し、次に下記昭和 13 年度優秀論文の著者に對し土木賞牌の贈呈を行ふ。

昭和 13 年度優秀論文及著者

任意の數の集中荷重を擔ふ可撓性素條に就て (土木學會誌第 24 卷第 7 號所載)

會員 工学博士 吉町太郎一君

濾過阻止率の計算 (土木學會誌第 24 卷第 8,9 號所載)

會員 工学博士 岩崎富久君

次いで辰馬會長の講演 (別項) あり午後 5 時 50 分閉會せり。

講演會

總會終了後午後 6 時より下記の講演ありたり。

出席者：120 名

滿洲國水力電氣事業に就て

會員 本間徳雄君

滿洲の都邑計畫

會員 近藤謙三郎君

講演會終了後有志晚餐會を開催し出席者 75 名にして午後 9 時散會せり (別項記事参照)。

役員會

第 25 回理事會 (昭. 14. 1. 23.)

出席者：辰馬會長、新井副會長、高橋、山崎、川口、各理事、中村書記長、小野寺庶務主任、朝倉會計主任

報 告

1. 總會當日の講演者及演題を次の如く決定の通知

ありたり。

滿洲國水力電気事業に就て

滿洲國水力電気建設局副局長 本間徳雄君

2. 東北支部商議員半数改選の結果次の如く再任又は新任せられたり。

岡崎信雄君、河合 清君、小出豊治郎君、佐藤東次郎君（以上留任）薄田 清君、後藤久吉君（以上新任）

3. 關西支部第1回役員會議事を報告せり。

議 事

1. 昭和 13 年度事業報告及決算報告（追加及繰越豫算共）を會告の通り承認することとせり。

2. 昭和 13 年度土木賞牌を次の論文に對し贈呈することとせり。

土木學會誌第 24 卷第 7 號登載

「任意の数の集中荷重を擔ぶ可撓性索條に就て」

著者、會員、工学博士 吉町太郎一君

土木學會誌第 24 卷第 8,9 號登載

「濾過阻止率の計算」

著者、會員、工学博士 岩崎 富久君

3. 役員選舉投票の開票日及立會役員は常議員會に諮ることとせり。

4. 文化映畫委員會委員に下山重丸君を依囑することとせり。

5. 入退會の件別紙の通り承認せり。

第 26 回理事會（昭. 14. 2. 6.）

出席者：辰馬會長、新井、堀越兩副會長、高橋、山崎、岡田、榎木、川口各理事、中村書記長、小野寺庶務主任、朝倉會計主任

報 告

1. 役員選舉の結果を別紙の通り報告せり。

2. 北海道支部商議員其他次の通り退任又は新任せり。

商議員 稻積豊二君（退任）千秋邦夫君（新任）

幹 事 小川讓二君（退任）安藤眞孝君（新任）

主 事 岡本増成君（新任）

3. 東北支部第 8 回役員會議事を報告せり。

4. 關西支部第 12 回大會議事を報告せり。

5. 關西支部役員改選の結果次の通り報告せり。

支部長 當選 福留並 喜君

商議員 當選 成 瀬 喬君 荻野竹四郎君

川上 留吉君 永 田 年君

泉谷平次郎君 田 村 義 正君

後藤宇太郎君 平野 重 市君

議 事

1. 東北支部昭和 13 年度收支決算は承認することとせり。

2. 文化映畫委員會より提案の映畫會開催の件は一時保留することとせり。

第 12 回常議員會（昭. 14. 1. 23.）

出席者：辰馬會長、新井、堀越兩副會長、高橋（嘉）山崎、川口、青木、伊藤、海老、菊池、中村各常議員

岡野、井上兩前會長、中村書記長、小野寺庶務主任、朝倉會計主任

報 告

1. 東北支部商議員半数改選の結果（理事會報告參照）を報告せり。

2. 關西支部第 1 回役員會議事を報告せり。

3. 入退會を別紙の通り承認せり。

4. 文化映畫委員會委員に下山重丸君を依囑せり。

議 事

1. 昭和 13 年度事業報告並に決算報告（追加及繰越豫算共）を會告の通り承認せり。

2. 昭和 13 年度關西支部決算報告別紙原案の通り承認せり。

3. 昭和 13 年度北海道支部決算報告別紙原案の通り承認せり。

4. 昭和 13 年度中部支部決算報告別紙原案の通り承認せり。

5. 西部支部内規の 1 部改正の件別紙原案の通り承認せり。

6. 昭和 13 年度土木賞牌を別記（理事會議事參照）の通り贈呈することとせり。

7. 役員選舉投票の開票日及立會役員を次の通り決定せり。

開票日時 2 月 6 日午後 4 時半

立會役員氏名 副會長 堀越清六君

理 事 山崎匡輔君 川口裕康君

常議員 菊池 明君 村橋恒造君

8. 通常總會開催日及總會順序を次の通り決定せり。

日時：昭和 14 年 2 月 15 日午後 4 時 30 分

會場：帝國鉄道協會

順序：昭和 13 年度事業報告

〃 決算報告

役員選挙の結果報告並に紹介

特定期間中入會金免除の件

昭和 13 年度土木賞牌贈呈

會長講演

以上

總會終了後講演會

滿洲國水力電氣事業に就て

滿洲國水力電氣建設局副局長 本間徳雄君

講演會終了後有志晩餐會開催 (會費 2 円 50 錢)

9. 本會創立 25 周年記念事業として別紙 (省略) 事項に就き攻究することとせり。

10. 本會創立 25 周年記念事業項目中入會金免除に關しては次の如く通常總會に附議することとせり。

1. 特定期間中入會金免除の件

「昭和 14 年 1 月 1 日より昭和 14 年 12 月 31 日まで新に入會を承認せられたる會員、准員、學生員に對し土木學會規則の規定に拘らず特に入會金の納付を免除することを得るものとす」

(規則第 3 條, 第 8 條, 第 11 條参照)

臨時常議員會 (昭. 14. 2. 6.)

昭和 14 年 1 月 23 日開催の常議員會に於て委任せられたる役員立會の下に本會々議室に於て役員選挙投票の開票を行ひ、其の結果總會記事の如し。

總 務 部 記 事

土木學會文化映畫委員會 (昭. 14. 1. 25.)

出席者: 瀨尾委員長代理, 金子, 澤, 廣田, 下山, 片平各委員, 徳丸囑託, 小野寺庶務主任

1. 文化映畫委員會主催の「映畫の夕」につき次の如く決定せり。

(1) 開催日時 3 月 15 日午後 5 時 30 分~9 時

(2) 場 所 蠶絲會館

(3) 映寫目錄 (a) 昭和 13 年の關東, 關西水害實寫, 其他=ニュース

(b) トンネル (海底隧道を取扱ふ土木劇映畫)

(c) 歐米都市文化施設 (下山委員撮影の天然色映畫)

(4) 委員長代理より映畫の主旨及本委員會の趣意につき挨拶を行ふ事

2. マニラへ文化使節として行かれる内藤多仲氏の依頼により前委員長金森博士作「翻ひられぬ人」の他

下記二篇を推薦する事とせり。

(1) 鉄道橋梁架設工事 (土木北線第 3 吉野川橋梁吊下式架設工事)

(2) 白魔征服 (本邦におけるラッセル車の活躍)

3. 土木映畫調査表第 1 輯を得てその中より優秀と思はれるものを次回委員會より試寫し、優秀土木映畫推薦の資となすこととせり。

土木學會文化映畫小委員會 (昭. 14. 1. 26.)

出席者: 瀨尾委員長代理, 横田, 片平各委員

1. シナリオ応募者に對する賞品につき協議し、最後の決定を見たり。

編 輯 部 記 事

第 2 回會誌編輯委員會 (昭. 14. 2. 8.)

出席者: 山崎委員長, 太田尾, 黒澤, 立花, 當山, 野口, 廣瀬, 安宅各委員, 糸川編輯主任

協議事項

1. 第 25 卷第 2 號所載原稿の謝禮を決定す。

2. 第 25 卷第 3 號に時報 8 篇を追加す。

3. 第 25 卷第 4 號登載記事を下記の如く決定す。

論說報告: 接觸応力の 1 問題 (會, 最上武雄), 華北に於ける水利上の諸問題に就て (會, 淺野 好), 最近に於ける北海道の石炭事情と港灣施設に就て (會, 田中茂美), 諸外國に於ける施業枕木の機械的處理に就て (會, 兒島重次郎), 施行中の十勝川河西橋架換工事に就て (會, 横道英雄), 鉄筋コンクリート桁断面に於ける中立軸の位置決定に關する實驗 (會, 高橋逸夫)

彙報: 非對稱断面の双曲線形道路横断面曲線に就て (准, 淺田喜久男)

抄録: 低熱セメントの展望, 鉄筋コンクリート支承の圧縮試験, 簡單な土壤試験機, 熔接接手の検査に應用せる X 線寫眞に就て, Maas 河に於ける Ramet-Trog 堤, 最近の堰堤工法 (岩盤調査及基礎工), 促進汚泥法に依る Topeka 市下水處分場の設計及操作, 下水處分の設備に於ける合金鋼使用に就て, ポーランド市下水改良計畫, 自由港區問題とニューヨーク港に於ける實施經過, 道路照明方法の改善, 桑港オークランド港橋上の鉄道, Harrisburg 操車場の改良工事概要

調 査 部 記 事

第 3 回關東及關西地方水害調査委員會議事報告 (昭. 14. 1. 17.)

出席者： 眞田委員長，鈴木，阿曾沼兩副委員長，伊藤（信），岡部，沖淵，河口，佐藤，田中，高橋，花房，極浦，山口，松岡各委員，富永幹事，小野寺庶務主任

協議事項

調査報告編纂方法に就て協議し次の如く取扱ふこととせり以。

1. 河川關係： 大河川は河川別に總括し，小河川は府縣別とすること。
2. 上り水： 水力發電關係，府縣及都市別とすること。
3. 道路橋梁關係： 府縣別とし東京市の分は各區別とすること。
4. 鉄道軌道關係： 各線別とすること。
5. 關東地方水害報告と關西地方水害報告を區分し編纂すること。
6. 群馬縣管内の報告未着及愛知縣管内河川以外の調査を至急報告方督促すること。

以上の外 10 月 15 日鹿兒島地方に起りたる河川，道路，鉄道等の風水害に關し調査報告作成の議ありたり。

關 西 支 部 記 事

第 1 回役員會（昭. 14. 1. 13.）

出席者： 島崎支部長，鈴木（角），鈴木（義），宮内，石原，笈，林，三好，稻浦各商議員，荻原幹事長，鮫島，柴田兩幹事，松島，後藤，岩田，島各前支部長，山本主事

議 事

1. 第 12 回大會開催に關する件

第 12 回大會（昭. 14. 1. 26.）

出席者： 131 名

議 事

1. 會計報告
2. 事務及事業報告
3. 各委員會の経過報告
4. 役員選舉（別記）

議事終了後引続き講演及懇親會を開催す
各種委員會の開催

1. 土木事業計畫審査委員會第 7 回橋梁部會

（昭. 13. 12. 13.）

東 北 支 部 記 事

第 8 回役員會（昭. 14. 1. 24.）

出席者： 鶴見支部長，岡崎，大石，金森，内田，薄田，上山（代），佐藤（代），各商議員，三島幹事長，中島，中津海兩幹事，菊田主事

報 告

1. 第 1 回支部長會議に就て
2. 本會 25 周年記念事業に就て
3. 第 7 回役員會以後の會務

議 事

1. 昭和 13 年度支部收支決算
2. 昭和 14 年度事業其他

北 海 道 支 部 記 事

1. 北海道支部役員別記の如く異動せり。

其 の 他 記 事

昭和 14 年 1 月 14 日役員改選に關し土木學會規則第 15 條に依り所定の連記式投票用紙全會員に送附せり。

昭和 14 年 1 月 30 日通常總會開催の通知書を全會員に送附せり。

昭和 14 年 2 月 1 日土木學會誌第 25 卷第 2 號を發行成規の手續を了し，全會員に配布せり。

通常總會有志晚餐會

通常總會の終了に引續いて恒例の有志晚餐會を鉄道協會の大食堂に於て開催，參加者は新舊役員を始めとして一般會員有志の 75 名であつた。新會長八田嘉明氏は折柄議會開會中で御多忙の爲に出席されなかつたが，辰馬會長，堀越，新井兩副會長，谷口新副會長，及講演會に講師として出席された滿洲國の本間徳雄，近藤謙三郎兩會員の參加を得て極めて盛會裡に宴を開催した。

先づ堀越副會長立つて留任側役員を代表し，昭和 13 年も本日を以つて滞りなく諸事を終了した旨を述べ，茲に退任される舊役員諸氏に對して衷心よりその勞苦に謝意を表すると共に，代つて本年度の役員の任に當るに際してその決意の一端を述べて着席す。續いて辰

馬會長は會長として在任せる1年間に就いて簡単に報告せられると共に、年と共に隆盛に赴く本會の益々將來多事なる點について一般の決意を促し、特に昨年中は日支事変による輝しき大陸進出の躍進期に直面し、他の学協會に率先して彼地に名譽ある本會代表を送りてその認識を深めると共に大陸開發に對する土木技術者の決意の程を明にした事は一段と本會の存在を意義あらしめたものなる事を強調され、在任中に於ける役員各位の援助に對して深甚なる謝意を表する旨を述べて着席す。

次に新副會長谷口三郎氏起つて、今回會員各位の推擧によつて新役員に就任せるに就いては粉骨碎身、専ら本會の爲に努力を致す覺悟なる事を披瀝し、八田新會長に代りて新役員一同を代表して決意の程を示し、大方の後援を乞ふ旨を述べて着席さる。

斯くて最後に土木學會の萬歳を三唱し午後9時この意義ある有志晩餐會の幕を閉じた。

有志晩餐會出席者氏名

阿 會 沼 均君	安 藝 杏 一君	青 山 士 君
新 井 榮 吉君	有 坂 誠 喜君	井 上 秀 二君
池 邊 稻 生君	石 井 眞 一 郎君	石 川 榮 次 郎君

磯 海 國 吉君	海 老 季 美君	小 見 喜 平君
大 河 戸 宗 治君	大 竹 邦 平君	大 村 四 郎君
岡 崎 正 伸君	岡 崎 保 吉君	金 子 源 一 郎君
河 原 直 文君	榎 木 寛 之君	木 村 芳 男君
菊 池 清君	北 澤 惇 夫君	君 島 八 郎君
九 鬼 織 造君	久 保 田 敬 一君	小 山 友 直君
近 藤 謙 三 郎君	佐 藤 徳 君	齋 藤 孝 二 郎君
眞 田 秀 吉君	春 藤 眞 三 君	鈴 木 鹿 象君
鈴 木 長 治君	關 重 雄君	田 井 九 一 君
田 邊 良 忠君	田 村 與 吉君	高 井 信 一 君
高 橋 嘉 一 郎君	高 橋 三 郎君	瀧 山 興 君
辰 馬 鎌 藏君	谷 口 三 郎君	丹 治 經 三 君
鶴 見 一 之 君	中 川 吉 造君	中 村 光 四 郎君
永 井 松 次 郎君	長 瀬 菊 次 郎君	那 波 光 雄君
榊 澤 惟 助君	畠 山 好 伸君	林 千 秋君
百 武 定 一 君	平 井 喜 久 松君	深 尾 代 治君
藤 田 弘 直君	古 川 阪 次 郎君	堀 越 清 六 君
本 間 徳 雄君	前 川 貫 一 君	松 永 工 君
目 黒 清 雄君	名 井 九 介君	山 岡 包 郎君
山 倉 嘉 一 郎君	山 崎 匡 輔君	山 田 博 愛君
山 邊 芳 雄君	山 本 新 次 郎君	吉 町 太 郎 一 君
米 元 晋 一 君	和 田 重 辰君	瀧 尾 達 也 君

入 會 及 転 格 會 員

特 別 員 (入 會)

東京灣埋立會社社長府出張所 田村慶雄君 青池 保君 3級

會 員 (入 會)

阿 部 隆 徳君 京都市水道局下水課
大 内 二 男君 株式會社竹中工務店

金子宇一郎君 貝島炭礦株式會社
下山重丸君

塚 島 秀 雄君 大牟田市土木課

准 員 (入 會)

安 部 幸 三君 日鉄八幡製鉄所工務部
安 藤 榮 君 鉄道省監督局技術課
綾 井 昇 君 京都市港湾部技術課
石 尾 進 君 臺灣花連港築港工事事務所
宇 田 嘉 七 君 關東州廳土木部工務課
大 崎 洋 三 君 奉天中村部隊
大 築 政 君 日鉄八幡製鉄所經理部運轉課
落 合 佐 多 美 君 大阪府築島工務所
加 茂 義 三 君 日本製鉄株式會社
近 藤 一 夫 君 東邦電力株式會社
鮫 島 利 近 君 京都市港湾部技術課

芝 山 義 雄君 日鉄八幡製鉄所工務部土木課
高 橋 彌 祿君 日本製鉄株式會社
瀧 澤 優 君 關東州廳土木部工務課
張 基 隆君 基隆炭礦株式會社
津 田 善 眞君 日鉄八幡製鉄所工務部土木課
二 階 堂 清 君 東京府第4道路出張所
牧 野 浩 君 鉄道省秋田地政事務所
松 本 竹 次 君 出雲電氣株式會社
森 芳 夫 君 鉄道工業株式會社
吉 野 隆 次 君 臺灣基隆築港出張所
吉 山 盛 次 君 關東州廳土木部工務課

李 乘 濟 君 關東州廳土木部工務課
岩 城 重 雄君 同臺灣北道廳土木課
小 倉 新 太 郎君 //
勝 川 正 三 君 //
河 野 良 平君 石川縣大聖寺土木出張所
寺 崎 幸 助 君 廣島市都市計畫課
藤 田 信 君 石川縣柳川改修事務所
山 田 武 雄 君 新京特別市公署工務處土木科
畑 生 和 雄 君 鉄道省工務局計畫課

学 生 員 (入 會)

和泉秀夫君	日大工学部	佐藤亨君	仙臺高工	三宅善喜君	日大工学部
石黒一男君	〃	佐藤彌平治君	東京高工	宮塚義夫君	北大土木専門部
小原勇君	〃	柴原孝太郎君	東京帝大	安山信雄君	京都帝大
改發正君	京都帝大	垂水正行君	日大工学部	山口光彦君	東鉄教習所専門部
喜多村典彦君	徳島高工	永井即君	東鉄教習所専門部	渡邊豊君	京都帝大
北村浩君	東鉄教習所専門部	永松豊君	日大工学部	杉原孝一君	京城高工
佐藤勝藏君	〃	本田豊君	東鉄教習所専門部	田野卓之君	〃

會 員 (転 格)

小合虎馬二君 佐世保海軍建築部

土 木 学 會 々 員 數

會 員	准 員	学 生 員	特 別 員	賛 助 員	合 計
3 206	3 736	1 122	82	21	8 167

會 員 藏重長男君 昭和13年12月24日逝去せられたり、本會は弔詞を靈前に呈し恭しく哀悼の意を表したり。

會 員 工学博士 渡邊六郎君 昭和14年1月27日逝去せられたり、本會は弔詞を靈前に呈し恭しく哀悼の意を表したり。

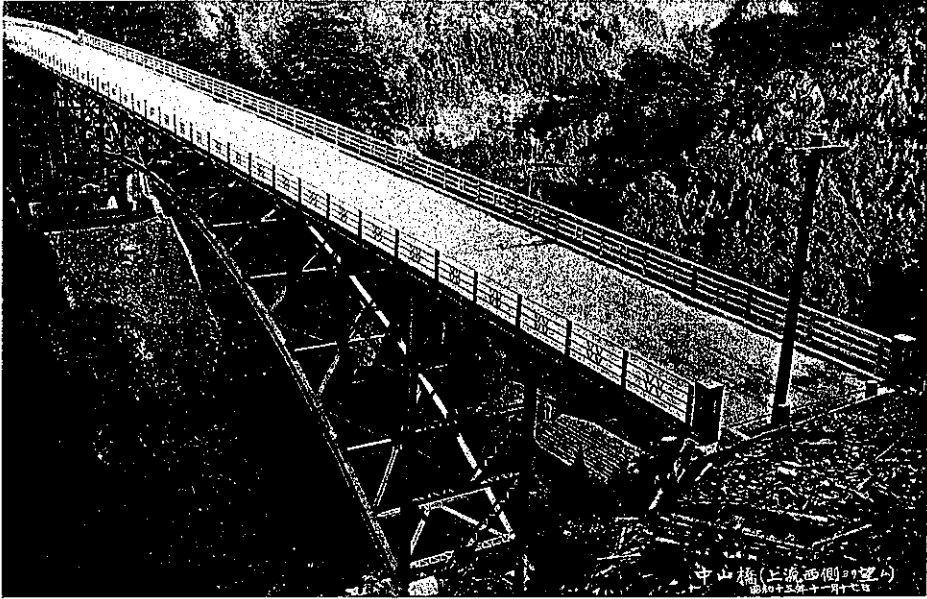
會 員 井上親雄君、左座小一郎君、田中三郎君、山岸安二君の訃報に接す、本會は恭しく哀悼の意を表す。

准 員 家村次夫君、高笠 猛君、戸井田有一君の訃報に接す、本會は恭しく哀悼の意を表す。

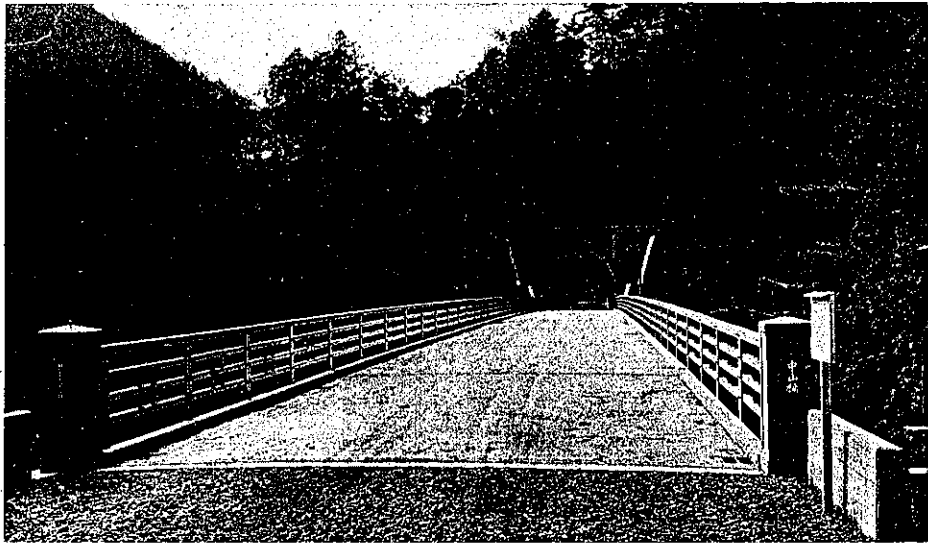
中山橋 (東京府西多摩郡)

東京市施工

全景 (上流西側より望む)

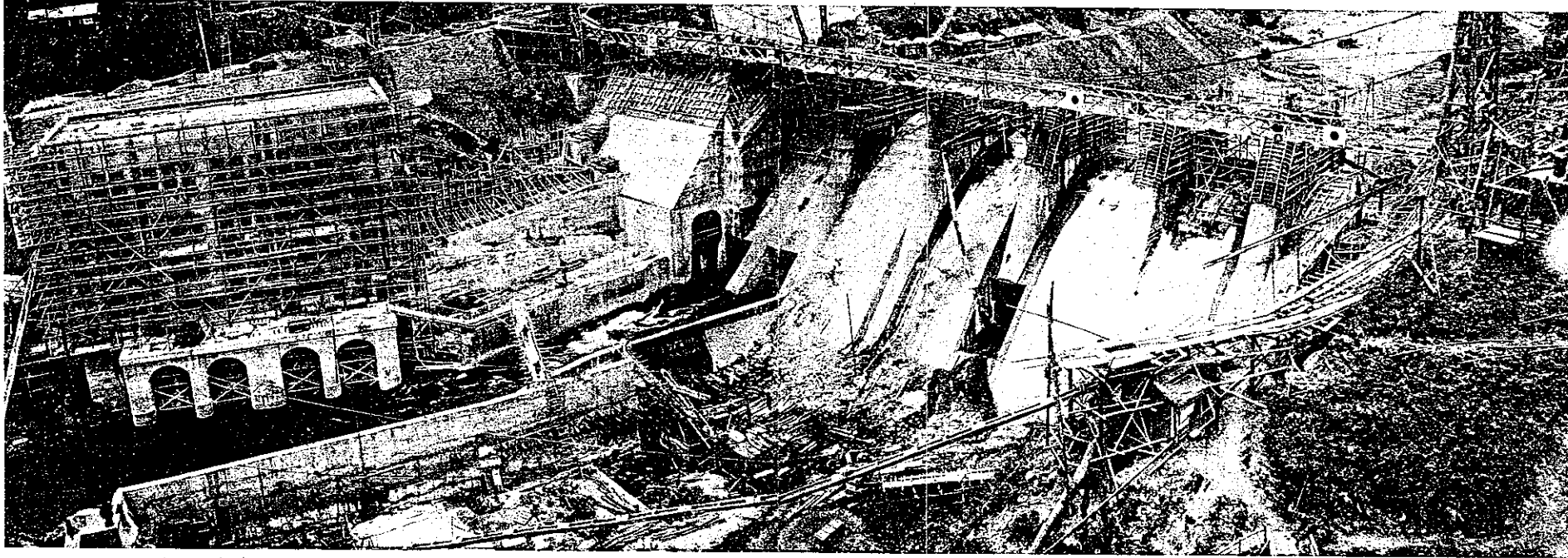


正面図 (東側より)



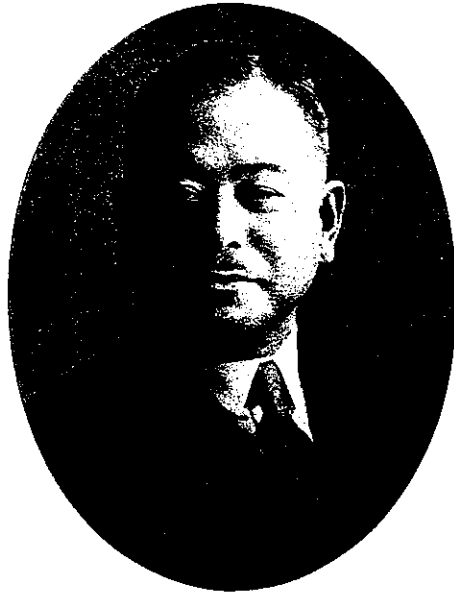
架橋位置: 東京府西多摩郡氷川村
路線: 東京市小河内堰堤築造材料運搬専用道路
橋長: 85.06 m 有効幅員: 6.00 m
型式: 腔構鋼拱橋 (支間 62.40 m, 構中心間隔 5.00 m)
竣工: 昭和 13 年 11 月

揖斐川電気西平発電所工事状況



事業者、発電所名： 揖斐川電気株式会社西平発電所 河川名： 木曾川水系揖斐川
取水箇所： 岐阜県揖斐郡久瀬村大字三倉字高畑 流域面積： 600 km²
使用水量： 最大毎秒時 62.0 m³、 常時毎秒時 15.4 m³
有効落差： 最大出力時 22.31 m、 常時出力時 22.80 m
発電力： 最大 11 130.0 KW、 常時 2 830.0 KW
堰 堤： 全高 36.50 m、 長さ 149.00 m、 コンクリート量 43 800.0 m³ 可動堰は高さ
80 m 幅 8.75 m のテンタゲートを 6 門、 排砂門は高さ 3.0 m 幅 3.0 m

取水口： 長さ 13.50 m、 有効幅 10.00 m、 高さ 12.50 m、 制水門は高さ 3.38 m 幅
3.38 m を 2 門
鉄管路： 鉄管内径 3.376 m、 板厚 9 mm 2 條、 延長 55.84 m 及 69.09 m
放水路： 延長 5.50 m、 有効幅 15.60 m
貯水池： 背水影響 5 300.0 m、 最高貯水面積 439 860.0 m²、 利用水深 3.0 m
有効容量 1 222 250.0 m³
本年 5 月 1 日送電開始の豫定



八田嘉明

會長
工學士
八 田 嘉 明



堀越清六

副會長
工學士
堀 越 清 六



谷口三郎

副會長
工學士
谷 口 三 郎

正 誤 訂 正 表
橋梁トラスの 2 次応力實用算式に就て
(第 25 卷 第 2 號所載)

頁	行	誤	正
107	上 5	$1.58 n$	$-1.58 n$
„	上 16	M_{101}	M_{010}
108	上 12	$M_{0,1}$	M_{011}
112	下 4	10.69	0.69